

Q2: 「基準値」がまもられていれば安全なのですか？

A2: 今一番問題になっている食品の放射線値について、セシウムに限定して述べます。セシウムの暫定基準値は、飲料水と牛乳・乳製品は1キログラムあたり2000ベクレル、野菜や肉・魚介類は500ベクレルとなっています。この暫定基準値は、国際放射線防護委員会（ICRP）が緊急時対応として勧告した放射線防護の基準を参考に厚生労働省により設定され、内閣府食品安全委員会が認めたものです。

厚生労働省の基準審査課によると「セシウムは各食品類ごとに上限を1ミリシーベルトとし、全体で5ミリシーベルトを超えないように計算してい」とのことですが、上限値で食べ続けると単純計算で6.248ミリシーベルトとなり、食品類だけで5ミリシーベルトを軽く超えることとなります。（算出のもとになった1日あたりの摂取量は、飲料水1.65リットル、牛乳・乳製品200グラム、野菜類600グラム、穀類300グラム、肉・魚貝類500グラムです。）

福島第一原発事故以前は年間1ミリシーベルト以下が基準値であったことを考えると、とても「安全」とは言えません。汚染した牛肉が出回ったことを考えても、チェック体制の甘さがあり、今後も暫定基準値を超えた食品が出回る可能性があります。福島県産の食品を買わないなどの「風評被害」が出ていますが、隠すから不安になり、風評被害が起きるのです。食品の全品検査を行い、すべての汚染データを明らかにすることが必要です。どの程度の汚染食品を食べるかは消費者の判断に任せべきです。「依らしむべし、知らしむべからず」は民主主義に反しています。

食品からのセシウム被ばくに焦点を当てて説明しましたが、本当はストロンチウムなど他の放射性物質を含めて考えなければいけないし、呼吸からの被ばく、そして汚染された土壌などからの外部被ばくを含めないと被ばくの総量は出ません。すべて含めて年間1ミリシーベルトがこれまでの基準値だったのです。